

数学 コース 1

(基本コース)

(コース2は 15 ページからです)

「解答コース」記入方法

解答コースには「コース1」と「コース2」がありますので、どちらかのコースを 一つだけ 選んで解答してください。「コース1」を解答する場合は、右のように、解答用紙の「解答コース」の「コース1」を○で囲み、その下のマーク欄をマークしてください。

選択したコースを正しくマークしないと、採点されません。

< 解答用紙記入例 >

解答コース Course

コース 1 Course 1	コース 2 Course 2
●	○

数学-2

I

問 1 a, b は実数であり, $0 < b < 7$ とする。2 次関数

$$f(x) = x^2 - 6x + a$$

の $b \leqq x \leqq 7$ の範囲における最大値 M と最小値 m を考える。

$f(x)$ は

$$f(x) = (x - \boxed{A})^2 + a - \boxed{B}$$

と表される。

(1) 次の文中の **C** ~ **G** には, 下の ① ~ ⑨ の中から適するものを選びなさい。

次の 2 つの場合に分けて, M, m を求める。

(i) $0 < b \leqq \boxed{C}$ のとき

$$M = \boxed{D}, \quad m = \boxed{E}$$

である。

(ii) $\boxed{C} < b < 7$ のとき

$$M = \boxed{F}, \quad m = \boxed{G}$$

である。

① 0

② 1

③ 2

④ 3

⑤ $a - 6$

⑥ $a + 7$

⑦ $a + 8$

⑧ $a - 9$

⑨ $b^2 - 6b + a$

⑨ $b^2 + 6b + a$

(2) $M = 13, m = 1$ となるような a, b を求めると

$$a = \boxed{H}, \quad b = \boxed{I}$$

である。

- 計算欄 (memo) -

数学-4

問 2 大中小 3 個のさいころを同時に投げて出た目の数をそれぞれ x, y, z とし

$x = y = z$ である事象を A ,

$x + y + z = 6$ である事象を B ,

$x + y = z$ である事象を C

とする。

(1) 事象 A, B, C の起こる場合の数は、それぞれ

A が **J**, B が **KL**, C が **MN**

である。

(2) 事象 $A \cap B, B \cap C, C \cap A$ の起こる場合の数は、それぞれ

$A \cap B$ が **O**, $B \cap C$ が **P**, $C \cap A$ が **Q**

である。

(3) 事象 $B \cup C$ の起こる確率 $P(B \cup C)$ は

$$P(B \cup C) = \frac{\boxed{RS}}{\boxed{TUV}}$$

である。

注) さいころ : dice

- 計算欄 (memo) -

I の問題はこれで終わりです。I の解答欄 W ~ Z はマークしないでください。

II

問 1 x の式

$$P = |x - 1| + |x - 2| + |x - a|$$

を考える。 P の値が $x = a$ のとき最小となるような実数 a の値の範囲を求めよう。

まず、一般に不等式

$$|x - 1| + |x - 2| + |x - a| \geq |x - 1| + |x - 2|$$

が成り立ち、等号が成り立つのは $x = a$ のときであることに注目する。

このとき

$$y = |x - 1| + |x - 2| \quad \dots \quad ①$$

とおくと

$$y = \begin{cases} -\boxed{A}x + \boxed{B} & (x < \boxed{C}) \\ \boxed{D} & (\boxed{C} \leq x \leq \boxed{E}) \\ \boxed{F}x - \boxed{G} & (\boxed{E} < x) \end{cases}$$

である。

① のグラフを考えると、 y の最小値は \boxed{H} であり、不等式 $\boxed{I} \leq x \leq \boxed{J}$ を満たすすべての x において y はこの値 \boxed{H} をとることが分かる。

よって、 $\boxed{K} \leq a \leq \boxed{L}$ を満たすすべての a に対して、 P の値は $x = a$ で最小となる。また、そのときの P の値は \boxed{M} である。

- 計算欄 (memo) -

数学-8

問 2 自然数 a, b の最大公約数は 3 とする。 a, b の最小公倍数を ℓ とおくとき

$$3a - 2b = \ell + 3 \quad \dots\dots\dots \quad ①$$

が成り立つような自然数 a, b を求めよう。

$a = 3p, b = 3q$ とおくと、 p, q は互いに素であるから $\ell = \boxed{\mathbf{N}} pq$ である。

したがって、等式 ① は p, q を用いて

$$pq - \boxed{\mathbf{O}} p + \boxed{\mathbf{P}} q + \boxed{\mathbf{Q}} = 0$$

と表される。これを変形して

$$(p + \boxed{\mathbf{R}})(q - \boxed{\mathbf{S}}) = -\boxed{\mathbf{T}}$$

を得る。この等式を満たす整数 p, q の組の中で a, b の両方が自然数となるのは

$$p = \boxed{\mathbf{U}}, \quad q = \boxed{\mathbf{V}}$$

のときであり

$$a = \boxed{\mathbf{WX}}, \quad b = \boxed{\mathbf{Y}}$$

である。

注) 最大公約数 : greatest common divisor, 最小公倍数 : least common multiple,
互いに素 : mutually prime (co-prime)

- 計算欄 (memo) -

II の問題はこれで終わりです。II の解答欄 Z はマークしないでください。

III

次の文中の **A** ~ **M** には、下の ① ~ ⑨ の中から適するものを選びなさい。

次の連立不等式を解いてみよう。ただし、 $0 < a < 1$ とする。

$$\begin{cases} x^2 - 2x < 3 & \dots\dots\dots \quad \textcircled{1} \\ ax^2 - ax - x + 1 > 0 & \dots\dots\dots \quad \textcircled{2} \end{cases}$$

不等式 ① を解くと

$$\boxed{\mathbf{A}} < x < \boxed{\mathbf{B}}$$

である。

次に、不等式 ② を変形して

$$(ax - \boxed{\mathbf{C}})(x - \boxed{\mathbf{D}}) > 0$$

を得る。よって、 $0 < a < 1$ に注意すると、② の解は

$$x < \boxed{\mathbf{E}} \quad \text{または} \quad \boxed{\mathbf{F}} < x$$

である。

したがって、求める連立不等式の解は

$$0 < a \leq \boxed{\mathbf{G}} \text{ のとき, } \boxed{\mathbf{H}} < x < \boxed{\mathbf{I}}$$

$$\boxed{\mathbf{G}} < a < 1 \text{ のとき, } \boxed{\mathbf{J}} < x < \boxed{\mathbf{K}} \text{ または } \boxed{\mathbf{L}} < x < \boxed{\mathbf{M}}$$

である。ただし、 $\boxed{\mathbf{K}} < \boxed{\mathbf{M}}$ とする。

$$\textcircled{0} \quad 0$$

$$\textcircled{1} \quad 1$$

$$\textcircled{2} \quad 2$$

$$\textcircled{3} \quad 3$$

$$\textcircled{4} \quad -1$$

$$\textcircled{5} \quad \frac{1}{2}$$

$$\textcircled{6} \quad \frac{1}{3}$$

$$\textcircled{7} \quad \frac{1}{a}$$

$$\textcircled{8} \quad \frac{2}{a}$$

$$\textcircled{9} \quad \frac{3}{a}$$

- 計算欄 (memo) -

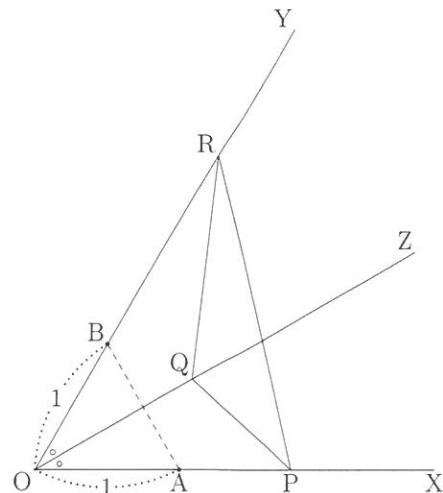
III の問題はこれで終わりです。 III の解答欄 N ~ Z はマークしないでください。

IV

右図において、 $\angle X O Y = 60^\circ$ であり、 $O Z$ は $\angle X O Y$ を 2 等分する半直線とする。また、半直線 $O X, O Y$ 上の点 A, B は $O A = O B = 1$ を満たす。

いま、 $O X, O Z, O Y$ 上の動点 P, Q, R は、それぞれ A, O, B から同時に発して、毎秒 $1, \sqrt{3}, 2$ の速さで点 O から遠ざかることとする。

このとき、3 点 P, Q, R が一直線上に並ぶまでの時間を、三角形 $P Q R$ の面積を考慮することによって求めよう。



まず、出発から t 秒後の $O P, O Q, O R$ の長さはそれぞれ

$$O P = t + \boxed{A}, \quad O Q = \sqrt{\boxed{B}} t, \quad O R = \boxed{C} t + \boxed{D}$$

と表される。このとき、三角形の面積はそれぞれ

$$\triangle O P Q = \frac{\sqrt{\boxed{E}} t (t + \boxed{F})}{4}$$

$$\triangle O R Q = \frac{\sqrt{\boxed{G}} t (\boxed{H} t + \boxed{I})}{4}$$

$$\triangle O P R = \frac{\sqrt{\boxed{J}} (t + \boxed{K}) (\boxed{L} t + \boxed{M})}{4}$$

である。よって

$$\triangle P Q R = \frac{\sqrt{\boxed{N}}}{4} \left| -t^2 + t + \boxed{O} \right|$$

である。したがって、3 点 P, Q, R が一直線上に並ぶのは

$$t^2 - t - \boxed{O} = \boxed{P}$$

が成り立つときと考えればよい。よって、求める時間は

$$t = \frac{\boxed{Q} + \sqrt{\boxed{R}}}{\boxed{S}} \text{ (秒)}$$

である。

- 計算欄 (memo) -

IV の問題はこれで終わりです。IV の解答欄 T ~ Z はマークしないでください。

コース 1 の問題はこれすべて終わりです。解答用紙の V はマークしないでください。

解答用紙の解答コース欄に「コース 1」が正しくマークしてあるか、
もう一度確かめてください。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。

〈数 学〉 Mathematics

コース 1 Course 1		
問 Q.	解答番号 row	正解 A.
I	問 1	AB 39
		C 3
		D 5
		E 7
		F 5
		G 8
		H 6
	I	5
	J	6
	KL	10
II	問 2	MN 15
		O 1
		P 2
		Q 0
		RSTUV 23216
		ABC 231
		DE 12
III	問 1	FG 23
		H 1
		IJ 12
		KL 12
		M 1
		N 3
		OPQ 321
	問 2	RST 237
		U 5
		V 2
		WX 15
		Y 6
		AB 43
		CD 11
IV	問 1	EF 17
		G 6
		HI 41
		JK 41
		LM 73
		A 1
		B 3

コース 2 Course 2		
問 Q.	解答番号 row	正解 A.
I	問 1	AB 39
		C 3
		D 5
		E 7
		F 5
		G 8
		H 6
	I	5
	J	6
	KL	10
II	問 2	MN 15
		O 1
		P 2
		Q 0
		RSTUV 23216
		ABC 962
		DE 13
III	問 1	F 1
		GH 22
		I 3
		JKL 932
		MN 44
		OP 32
		QRSTU 14357
	問 2	V 4
		W 3
		XY 58
		ABCD 4624
		EFGHI 34124
		JKLMN 34124
		O 1
IV	問 1	PQ -2
		R 1
		S 0
		T 0
		U 4
		V 9
		AB 41
V	問 2	C 4
		DEF 642
		G 4
		HI 14
		JK 74
		L 8
		MN 24